

告示	番号	13	悪性新生物
	疾病名	甲状腺癌	

甲状腺癌

こうじょうせんがん

概要・定義

甲状腺部に発生する上皮性悪性腫瘍で、様々な組織型を含んでいる。

症状

多くは甲状腺部の結節として認められる。進行例では、嚔声や嚔下障害、嚔下困難、呼吸困難、咳嗽などで気付かれることもある。しかし、多くは無症状で、画像検査などで偶然見つかる場合や解剖時に発見されることもある。

治療

甲状腺癌はその組織型によって、方針が異なる。

乳頭癌や濾胞癌などの分化癌では、まず外科的切除を施行する。遠隔転移やリンパ節転移、広汎浸潤を伴う場合うには、追加治療として、ア

ブレーション（放射性ヨード内服による残存甲状腺組織除去）を行う。

また、TSH抑制療法を併用することも考慮される。

髄様癌では、外科的切除+廓清を施行する。遺伝性でない場合には片葉切除も考慮される。

未分化癌では、診断時に進行性であることが多いため、外科的切除が難しいことが多い。しかし、腫瘍が限局性の場合には外科的切除が予後改善の最もよい治療法となる。浸潤例で、減量手術や拡大手術が予後の改善につながる根拠はない。また、放射線療法は有効性を示唆する報告が多い。化学療法については、ドキソルビシンの使用例が多く報告されているが、奏効率が低く、現状では有効な薬剤はない。近年、パクリタキセルの有効性についての報告が散見される。

低分化癌については、現時点での治療エビデンスが十分でない。

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/1_5_60.html